

プレスリリース

2022年6月3日

FSBが2022年外部監査ラウンドテーブルを開催

金融安定理事会（FSB）は、6月1日-2日、2022年外部監査ラウンドテーブルをスペイン・マドリッドで開催した。（中略）今回のラウンドテーブルでは、いかに外部監査に対する信頼を高めることで金融の安定を促進するか、に焦点を当てて議論が行われた。取り上げられた項目には、以下が含まれる。

- ・ グローバル監査ネットワークによる一貫した高品質な監査の達成に向けた進捗
- ・ 2022年またそれ以降に向けた、コロナ禍での予想信用損失（ECL）の会計及び監査に係る共通の課題及び得られた教訓
- ・ 保険契約に関する国際会計基準（IFRS第17号）の適用に向けた準備状況
- ・ 会計処理の要求事項（例えばのれん）の収斂や国際的な評価実務の一貫性を高める手段
- ・ 不正に関する外部監査人の役割及びより強力な基準の要求事項や高い透明性を通じ期待ギャップを埋める必要性
- ・ サステナビリティ関連報告における確固たる監査、保証及び倫理基準の重要性の高まり
- ・ 地政学上及び経済的不確実性に照らした新たな課題

参加者は、グローバル監査ネットワークにおける監査手法の高度化や品質管理システムの態勢整備等の監査品質に係る向上が見られる一方で、監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）の2021年検査指摘事項報告書で示された検査指摘率や再発分野を踏まえると、引き続き一貫した高品質な監査の実現に向けて取り組む必要がある、と認識した。

また参加者は、銀行によるECLについて、監査人は経済環境が変化する環境下での適用プロセスにチャレンジし続ける必要があるとのコンセンサスを形成するとともに、監査人が高い職業的懐疑心を示し、かつ複雑な見積りに内在する経営判断に対してチャレンジする重要性に言及した。こうした取組は、会計上の見積りに係る合理性の評価について、当局の監査人による評価結果への依拠を支えることになる。

保険契約に関するIFRS第17号の適用について、保険会社や関連する監査の準備は依然として重要であり、参加者は2023年のタイムリーで確実な適用に向けた期待をさらに強く持った。

サステナビリティや気候関連の報告基準と並んで、監査・保証に関する国際基準が果たす役割が、開示の信頼性や実務の一貫性を確保するためには重要である。参加者は、財務報告との相互関連性の高まりについても議論を行った。この拡大する開示を支えるために、監査、保証及び倫理に関する確固たる基準の必要性について参加者から幅広いコンセンサスがあった。

（Notes to editors は省略）

（以上）